

ISLIS 単行本編集委員長 山本幹男  
今後,変更となる事があります。ISLIS の HP 掲載の最新版でお確かめください。

**ISLIS 会員全員, ご寄稿お願い致します**  
何らかの寄稿会員には, 1 冊贈呈(2020 年度会費納入者)

国際生命情報科学会(ISLIS) 創立 25 周年記念出版

和文本題名 「潜在能力の科学 II」 執筆要領 ISLIS 発行 単行本  
英文本題名 「Human Potential Science II」 全文日本語版, 英文要旨付  
2004 年 ISLIS 発行 単行本「潜在能力の科学」にほぼ習うが, 書式は変更(下記)

単行本編集委員会: 委員長: 山本 幹男(理事長・編集委員長)  
委員: 木村 真人(現会長), 伊藤 武彦(前会長), 河野 貴美子(元会長・副会長・事務局長)

**寄稿可能者:** 国際生命情報科学会(ISLIS)の 顧問 **全会員** (2020 年度の会費納入者)  
**寄稿可能原稿:** 1. **各会員のプロフィール・顔写真**入り 会員種別により 1 頁 又は 半頁  
2. **研究成果**のまとめ各会員(またはグループ)の今までの 1~10 頁迄(特例有)  
3. **活動・経験**のまとめ等 特に研究成果の無い方 1~2 頁迄(特例有)  
2. 3. は, 事前に要旨提出により単行本編集委員長の承認を得たもの  
高卒程度で理解できるよう, やさしく書かれた原稿に限る

**仮要旨提出締切日:** 研究まとめ等, 第 2 期 **第 3 次 2020 年 10 月 19 日迄**に下記仮要旨提出。  
仮要旨内容等: 題名(仮題可), 著者名, 肩書, 内容, キーワード, **希望頁数**,  
連絡法: PC メール, 携帯電話, Fax, 〒番号, 住所, 等 **非公表の部分**は非公表として最後に  
**原稿締切日** 第 1 期: ネット掲載日: 2020 年 3 月 13 日(金)初版, **順次改訂版発行中**  
**原稿成型終了次第, 順次改訂, ネット掲載中**

**原稿締切日** 第 2 期: **2020 年 10 月末日** 印刷発行日: 2020 年 **12 月末日迄**  
**仮要旨・原稿提出先:** [islis@a-iri.org](mailto:islis@a-iri.org) [nsnpoiri@gmail.com](mailto:nsnpoiri@gmail.com)へ 同報メールにて

**問合わせ先:** 単行本編集委員長 **山本 幹男** [nsnpoiri@gmail.com](mailto:nsnpoiri@gmail.com)  
Fax 043-255-9143 携帯 090-9232-9542

**提出原稿書式:** A4 版(それぞれの書式例に従う事), 印刷本刷上り: A5 版 70%に縮小される  
原稿余白=マージン: 上部, 左部, 右部: **17mm**, 下部: 12mm  
文字字体=フォント: 和文: **メイリオ**, 英文: Times New Roman  
字の大きさ: 基本: 12pt(ポイント), 但し 付随的・資料的記事部分: 11pt で行間詰め可。  
**句読点:** 。ではなく, ． で , でなく, , で  
その他の書式は, 下記と, 各**原稿見本**とそこの指示を良く参照  
成型が指示通り上手く出来ない方は, **編集部員に依頼**してください: [islis@a-iri.org](mailto:islis@a-iri.org)

**ISLIS 会員プロフィール:** ISLIS 会員全員に提出権利有(2020 年度 ISLIS 会費納入者)  
投稿料は会員無料。

**専門会員・正会員:** 1 頁 又は 半頁 のいずれかを選択。 **その他の会員:** 半頁(特例有)  
**和文氏名:** 15pt(ポイント=字のフォントの大きさ)**太字**, その他: 12pt 普通字(**強調部太字可**)  
**行間:** 和文氏名行のみ: 17pt, その他: 14pt  
**行数:** 1 頁: 50 行以上記入する事, 53 行以内, 半頁: 26 行以内。 顔写真を入れた後,  
空白行も 1 行と数える。

**顔写真:** 右上部に配す事 横 45mm x 縦 60mm  
(顔写真, ネット掲載はカラーの場合がありますが, 印刷では全員白黒となる)  
会員プロフィールの**原稿見本**とそこの指示を良く参照

**研究まとめ等(上記 2. と 3.):** 事前に, 上記仮要旨を提出, 編集委員長の承認を得る事  
研究まとめ等(活動経験等も同じ見本準用)の**原稿見本**とそこの指示を良く参照

**投稿料：** 会員無料(2020 年度 ISLIS 会費納入者)。 ネット掲載でのカラーは無料だが、印刷でのカラー頁希望は、原稿最上部空欄に明記の上、5,000 円/カラー1 頁当り お支払い。

**権利及び義務：** 著作権は、原稿提出時に著者と ISLIS の両者に存するが、著作権は ISLIS に存する。但し、改訂版の著作権は、ISLIS に存する。  
原稿料は支払われないが、何らかの寄稿会員には、**単行本 1 冊贈呈**(20 年度会費納入者)  
研究まとめ著者には、更に、原稿 1 頁(4/5 行数以上の頁)につき**単行本 1 冊を贈呈**。

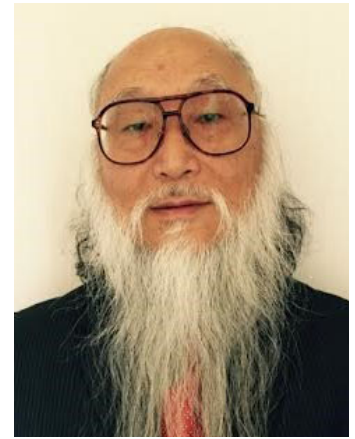
**売価 予定：**

単行本 一般販売予定価格：(本体 2,000 円+消費税 200 円)/1 冊  
+ 発送手数料 1,000 円/1 回 = 3,200 円/1 冊  
5,400 円/2 冊

著者割引(プロフィール著者を含む)：1,600 円/1 冊+発送手数料/1 回 = 2,600 円/1 冊  
4,200 円/2 冊

**シンポジウム会場販売：** 発送手数料が掛かりません。5 冊以上必要な方は予約ください。

**山本 幹男** 博士(医学),博士(工学), 元客員教授  
Mikio YAMAMOTO, Ph.D.(Med.), Ph.D.(Engr.), Former Professor



**国際総合研究機構( IRI ) 理事長**

IRI 理事長分室: 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台 2-13-31 Peace  
nsnpoiri@gmail.com Fax 043-255-9143 携帯 090-9232-9542

**国際生命情報科学会( ISLIS ) 理事長・編集委員長**

元 **科学技術庁/文部科学省 放射線医学総合研究所( NIRS )**

研究室長・上席研究員 34 年勤続定年退官

元 **東邦大学 理学部 客員教授, 千葉大学大学院 助教授,**  
**東北大学 医学部 講師 併任**

元 米国 **ワシントン大学** にて 2 年間研究 併任

**博士号:** 博士(医学) **東北大学**, 博士(工学) **電気通信大学**

1944 年 7 月生. 大学では量子力学理論,大学院では原子物理学(電子との衝突実験)を専攻.

**東京工業大学 原子炉工学研究所** で放射線物理を研究.

1971 **科学技術庁 放射線医学総合研究所( NIRS )**入所. 放射線・放射能の可視化法を研究.

'79 **日本初の PET(ポジトロン CT)**を独創的方法で開発,「科学技術庁長官 注目発明選定証」受賞. '80から2年間米国ワシントン大学にて**世界初の TOF-PET**を開発. 帰国後, NIRS にて,放射線による染色体異常の高速自動解析法 や CT 画像からの肺がんの自動抽出法 等を開発,これらの「**生体情報イメージング法**」の研究成果により「科学技術庁長官 業績表彰」受賞.

**日本医用画像工学会( JACT )**より長年の常務理事・編集委員長として「学会 功労賞」受賞.

'93 より,「**科学技術のパラダイム・シフト**」を起こそうと,今までの科学成果でどうしても原理の説明がついていない**不思議現象**である,気功・テレパシー・千里眼・透視・ヒーリング等の原理解明を目指し,「**潜在能力の科学**」の研究を国立研究所 NIRS 内で首を洗って勝手に開始.しかし本分野に'95 より 5 年間,科学技術庁予算「多用同時計測による生体機能の解析法の研究」を獲得,20 名近くのスタッフと共に,本分野のプロジェクトを世界最大級規模で実施.気功・遠当て・ヒーリングに,暗示以外の何かが存在している事を,2 重盲検法科学実験で立証.

'95 この分野の国際専門学会 **ISLIS** を創設,理事長・編集委員長として,本部事務局・編集部を研究室内に置き,本研究の国際的情報発信拠点を築く.以来,毎年 2 回「生命情報科学シンポジウム」を主催,2020 に第 50 回を主催する.その都度,国際学会誌(英文,和訳付) **Journal of International Society of Life Information Science** の刊行を継続.

'96 より,潜在能力に関する「**超党派国会議員連盟 人間サイエンスの会**」(NS)の創立に参画, '97 議員会館での第 1 回の講師を務め,第 2 回から 173 回迄 18 年間,講師の選定・事前参加申込受付・会場設営等,20 名程のボランティアスタッフと共に,世話人代表等として会を運営. 会員から総理大臣・大臣(文部科学大臣 2 名を含む)・副大臣級等を 数十名輩出.

2000 より 3 年間,科学技術振興事業団の「潜在能力の物理生理学による実証的研究」予算を獲得,本分野のプロジェクトを継続実施. '01 同事業団主催の「**新パラダイム創生に向けてー心と精神の関与する科学技術フォーラム**」をコ-ディネーター, '02 ISLIS 等主催の「**潜在能力の科学国際フォーラム**」をコ-ディネーターとして 450 名を結集して成功させた. '02 米国 NIH 前局長らがハワイで主催した「**スピリチュアル・ヒーリング**」の国際会議に,アジア組織者として山本が推薦した 7 名が招待され発表した.これらの成果を'02 に**単行本「潜在能力の科学」**として **ISLIS** より刊行.'20 に **ISLIS** 創立 25 周年記念出版として,**単行本「潜在能力の科学 II」**を刊行.

'01 本分野の研究を恒常的に実施する**国際総合研究機構( IRI )**を創立.'05 NIRS 60 歳定年退官時,研究室を **IRI**に移し,この分野の研究と推進を継続,現在に至る. **IRI**は食用キュウリをバイオセンサーとする方法を開発,ヒーリングやピラミッドの実験研究で幾多の論文を発表.

科学研究以外では, '12 **IRI 幸福社会研究所**を創立・初代所長. 2 年間に約 50 回の激論を経て起草代表者として「**地球幸福憲章**」を'14 起草,プレスリリース. 「**いやしのビル**」企画員会を創立,現在迄その実現に尽力中.

現在,世界一の「**潜在能力科学研究所**」の創立と同ビルや本部ビルの設計建設に尽力中.

ライフワーク: 1. 「世界を平和に」小学校卒業文集山本題名 2. 潜在能力原理解明

信条: 「私の財産は信用である」

趣味: ヘボだが自分でスポーツをする事(馬術 1 級,卓球,テニス,スキー,ウィンドサーフィン,パラグライダー,山), 建築設計プラン創り, ヘボ碁, 酒を飲みながら真剣に議論

**山本 幹男** 博士(医学),博士(工学), 元客員教授  
Mikio YAMAMOTO, Ph.D.(Med.), Ph.D.(Engr.), Former Professor



**国際総合研究機構(IRI) 理事長**

IRI 理事長分室: 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台 2-13-31 Peace  
nsnpoiri@gmail.com Fax 043-255-9143 090-9232-9542

**国際生命情報科学会(ISLIS) 理事長・編集委員長**

元 **科学技術庁/文部科学省 放射線医学総合研究所(NIRS)**  
研究室長・上席研究員 34 年勤続定年退官

1944 年 7 月生.大学では量子力学理論,大学院では原子物理学を  
専攻. **東京工業大学 原子炉工学研究所** で 放射線物理学を研究.

1971 **科学技術庁 放射線医学総合研究所(NIRS)**入所. 放射線・  
放射能の可視化法を研究.'79 **日本初の PET(ポジトロン CT)**を独創的方法で開発,「科学技術  
庁長官 注目発明選定証」受賞.'80 から 2 年間米国ワシントン大学にて**世界初の TOF-PET**  
を開発. 帰国後,放射線による染色体異常の高速自動解析法 や CT 画像からの肺がんの自動  
抽出法等を開発,これらの「**生体イメージング法**」の研究成果により「科学技術庁長官 業績  
表彰」受賞.

'93 より,今までの科学成果でどうしても説明がつかない不思議な現象と思っていた,気功・  
テレパシー・千里眼・透視・ヒーリング等の原理解明を目指し「**潜在能力の科学**」の研究を国  
立研究所 **NIRS** 内で勝手に開始.'95 より 5 年間,科学技術庁より「多用同時計測による生体機  
能の解析法の研究」の予算を獲得,本分野のプロジェクトを世界最大規模にて実施.気功・遠当  
て・ヒーリングに 2 重盲検法で暗示以外の何かが存在している事を科学実験にて立証.

趣味: ヘボだが自分でスポーツをする事(馬術 1 級,卓球,テニス,スキー,ウィンドサーフィ  
ン,パラグライダー,山), 建築設計プラン創り,ヘボ碁,酒を飲みながら真剣に議論  
以上全 26 行=半頁の最高行数(上から 3 行目以外の空白行の挿入は任意だが,行数には数える)

以下、ご寄稿お願い の頁と同文

**提出原稿書式**: A4 版(それぞれの書式例に従う事),印刷本刷上り: A5 版 70%に縮小される  
原稿余白=マージン: 上部, 左部, 右部: **17mm**, 下部: 12mm

文字字体=フォント: 和文: **メイリオ**, 英文: Times New Roman

字の大きさ: 基本: 12pt(ポイント), 但し 付随的・資料的記事部分: 11pt で行間詰め可.

**句読点**: 。ではなく. で , でなく, で

その他の書式は、下記と、各**原稿見本**とそこの指示を良く参照

成型が指示通り上手く出来ない方は、**編集部員に依頼**してください: [book.islis@a-iri.org](mailto:book.islis@a-iri.org)

**ISLIS 会員プロフィール**: **ISLIS 会員全員**に提出権利有(2019 年度 **ISLIS 会費納入者**)

投稿料は**会員無料**.

**専門会員・正会員**: 1 頁 又は 半頁 のいずれかを選択. **その他の会員**: 半頁(特例有)

**和文氏名**: 15pt(ポイント=字のフォントの大きさ) 太字,その他: 12pt 普通字(強調部太字可)

**行間**: 和文氏名行のみ: 17pt, その他: 14pt.

**行数**: 1 頁: 48 行以上記入がある事, 53 行以内(1 頁以内), 半頁: 26 行以内.

顔写真を入れた後,**空白行も 1 行**と数える.

**顔写真**: 右上部に配す事 横 45mm x 縦 60mm

(顔写真, ネット掲載は**カラー**の場合がありますが,印刷では**全員白黒**となる)

会員プロフィールの**原稿見本**とそこの指示を良く参照

**研究まとめ等(上記 2.と 3.)**: 事前に,上記仮要旨を提出,編集委員長の承認を得る事

研究まとめ等の**原稿見本**とそこの指示を良く参照



研究まとめ 執筆要領 有料カラー印刷希望者は、この行に明記 図 2. 表 4. はカラーで  
最初 2行開け 通常行 文字 12pt 行間 17pt 章と題名 文字 15pt 太字 行間 17pt  
第 xx 章 ピラミッド型構造物の未知なる機能の研究

1 行開け 以下 字 12pt, 行間 17pt 名前行 太字 氏名の間 半角 肩書も記入  
高木 治<sup>1</sup>, 坂本 政道<sup>2</sup>, 世一 秀雄<sup>3</sup>, 河野 貴美子<sup>4</sup>, 山本 幹男<sup>5</sup>

<sup>1, 3-5</sup> 国際総合研究機構 (IRI) (千葉県千葉市)

<sup>1</sup> 科学部長 [takagi@a-iri.org](mailto:takagi@a-iri.org), <sup>3</sup> 技術部長・主任研究員, <sup>4</sup> 副理事長, <sup>5</sup> 理事長

<sup>2</sup> (株)アクアヴィジョン・アカデミー 代表取締役 (千葉県成田市)

1 行開け 行間 17pt

要旨: 今までの研究では、・・・ 状況,目的,研究方法,結果,結論等を簡潔に纏める

キーワード: 太字 5~10 語程度

連絡先:高木 治 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA IRI 字 11pt 行間 12pt

e-mail: [takagi@a-iri.org](mailto:takagi@a-iri.org) 電話 043-255-5481 Fax -5482 公表可能情報のみここに記す

1 行開け

## 1. はじめに

今までの研究では、・・・

引用文献は 肩付け <sup>1,5-7</sup>

## 2. 実験方法

本実験方法を以下に示す、・・・

図: 図 2 ピラミッド構造物

表: 表 2 年間きゅうり使用本数

参考文献: 文献部は 字フォント Times New Roman,明朝 11pt, 行間 12pt

1) 参考文献の書き方は、下記見本を参照

2)

3)

1 行開け

最後に 英文要旨を付ける 字体 Times New Roman,

題名 字 14pt, 行間 17pt, その他 字 12pt, 行間 14pt

## Chaper15 Piramidal Reserch

1 行開け

Study on unexplained functions of the pyramidal structure  
Osamu TAKAGI<sup>1</sup>, Masamichi SAKAMOTO<sup>2</sup>, Hideo YOICHI<sup>3</sup>, Kimiko KAWANO<sup>4</sup>,  
Mikio YAMAMOTO<sup>5</sup>

<sup>1, 3-5</sup> *International Research Institute (IRI)*, Chiba-City, Japan

<sup>1</sup> Director of Science; [takagi@a-iri.org](mailto:takagi@a-iri.org), <sup>3</sup> Director of Technology & Senior Researcher

<sup>4</sup> Vice Chairman of the Board of Directors, <sup>5</sup> Chairman of the Board of Directors

<sup>2</sup> President, Aquavision Academy, Narita-City, Japan

1 行開け

Abstract:

Keywords:

各著者の頁入れは、フッター内の 右端に。

出来上がりの本全体の頁入れは、編集部が 中央に入れます。

詳細は 次頁~の 研究まとめ等 見本 を参照

章始め:2 行開け. 行間:17pt:題名~文章終迄:行間幅 30pt 固定 17pt(ポイント)を選択.

青字:執筆説明文 赤字:特に重要点. 題名のみ 15pt 太字. 所属複数の時 肩文字で区別.

## 第 xx 章 ピラミッド型構造物の未知なる機能の研究

1 行開け. 字体:メイリオ. 氏名 12pt 太文字, 所属複数の時 肩文字で区別 肩書も記入

高木 治<sup>1</sup>, 坂本 政道<sup>2</sup>, 世一 秀雄<sup>3</sup>, 河野 貴美子<sup>4</sup>, 山本 幹男<sup>5</sup>

<sup>1, 3-5</sup> 国際総合研究機構(IRI) (千葉県千葉市)

<sup>1</sup> 科学部長, <sup>3</sup> 技術部長・主任研究員, <sup>4</sup> 副理事長, <sup>5</sup> 理事長

<sup>2</sup> (株)アクアヴィジョン・アカデミー 代表取締役 (千葉県成田市)

1 行開け. 「要旨」のみ太字. 全文 句読点:。(全角)ではなく.(半角)で、でなく,で

要旨:本研究迄,ピラミッド機能に関し,統計的有意で厳密な科学実験成果はほとんど無かった.

本研究は,2007 年 10 月から現在まで,国際総合研究機構(International Research Institute:

IRI)で継続され,研究目的は,ピラミッド型構造物 (pyramidal structure: PS) に関し,現代科

中略

上段と下段に対する PS の潜在力の影響が異なることが発見された ( $p=4.0 \times 10^{-7}$ ). これらの結果は,厳密な科学的な実験と解析で,「ピラミッドパワー」が実証された世界最初の研究成果である. この成果が,科学の新しい一分野と幅広い応用分野を切り開くことが予想される.

キーワード:ピラミッド, 潜在力, 瞑想, 無意識, 非接触効果, 遅延, バイオセンサ, キュウリ,

ガス, サイ指数 キーワード 太字 5~10 語程度

連絡先:高木 治 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル4FA IRI 字 11pt 行間 12pt

e-mail : takagi@a-iri.org 電話 043-255-5481 Fax -5482 公表可能情報のみここに記す

1 行開け

### 1. はじめに

いわゆる「ピラミッドパワー」に関する,様々な言い伝えや書籍等は数多く存在している. し

中略

1 行開け 引用文献は 肩付け<sup>1,5-7)</sup>

### 2. 実験方法

#### 2-1. ピラミッド型構造物(PS)

実験で使用された PS を図 1(a)に示した. PS は,高さ 107 cm,稜の長さ 170 cm,底辺の長

1 行空けない

中略

#### 2-2. 「ピラミッドパワー」(非接触効果)の検出

我々は PS における未知なる機能(「ピラミッドパワー」)の存在を明らかにするため,バイオセンサ(キュウリ果実切片)に対する非接触効果を検証した. 一般的に植物等の生体は,傷付くことによって生体防御・修復反応が起こることが知られている<sup>10-13)</sup>. 我々は,様々な生体防

1 行空けない

中略

#### 2-5. 非接触効果の大きさを表すサイ指数( $\Psi$ )

PS 頂点に設置されたバイオセンサに対する,非接触効果の存在を検証するため,我々は非接

中略

我々がこれまで使用してきた J 値<sup>21)</sup>とサイ指数( $\Psi$ )との関係は, $\Psi = 100J$  である.

$$\Psi_1 = 100 \ln(G_{E1}/G_{C1}),$$

$$\Psi_2 = 100 \ln(G_{E2}/G_{C2}),$$

$$\Psi_3 = 100 \ln(G_{E3}/G_{C3}),$$

$$\Psi_4 = 100 \ln(G_{E4}/G_{C4}).$$

(1)

(1) 式において, $G_{E1}$ - $G_{E4}$ , $G_{C1}$ - $G_{C4}$  は図 1(b)で示した試料から測定されたガス濃度(ppm).

1 行空けない

中略

#### 3-3. 実験条件(ii)の結果: PS と「人間(被験者)が関連しなかった」場合

図 7(a)は,図 3 で示した,PS と「人間(被験者)が関連しなかった」という条件の下で行われ  
 中略

たや冬期データの平均値は,誤差の範囲でゼロであった. PS と「人間が関連しなかった」場合

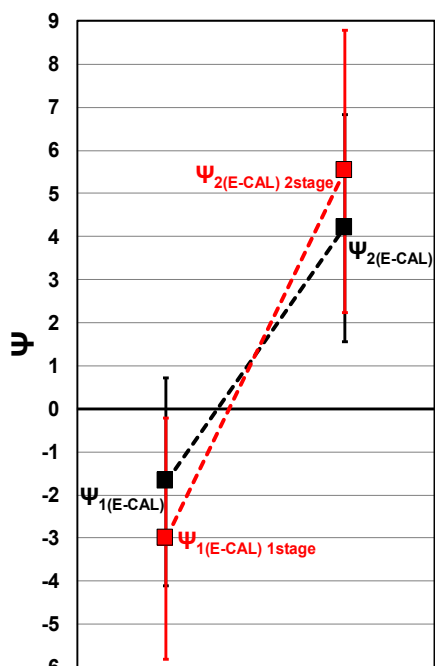


図 8 PS 頂点の上段と下段  
 の非接触効果の違い

に行われた実験結果が,夏期の場合,バイオセンサに対する非接触効果が有意であることから,PS の潜在的な力(「ピラミッドパワー」)の存在が実証された. 分散分析の結果,夏期データと冬期データ間の p 値が  $p=6.0 \times 10^{-3}$  となった. 図 7(c)は  $\Psi_{E-CAL}$  の移動平均(窓の大きさが 180 日)を計算した結果である. この結果から,PS の潜在力による非接触効果は,夏期に上に凸の構造を示すことが明らかになった. また PS の潜在力が,夏期も冬期も年間を通してバイオセンサに影響を及ぼしていることが判明した. これまでは,校正サイ指数として  $\Psi_{(E-CAL)}$  を求めたが,PS 頂点で 2 段に重ねた置かれたバイオセンサに対する,上下の違いを校正するために修正した校正サイ指数 ( $\Psi_{(E-CAL) \text{ stage}}$ ) を導入した. 解析の結果  $\Psi_{1(E-CAL) \text{ 1stage}}$  と  $\Psi_{2(E-CAL) \text{ 2stage}}$  との間に,有意差( $p=4.0 \times 10^{-7}$ )が存在した(図 8). この結果,PS 頂点に 2 段に重ねて置かれたバイオセンサに対して,PS の潜在力は異なる影響(非接触効果)を与えるということ. また,下段のバイオセンサより,PS から遠い位置にある上段のバイオセンサに対して,PS の潜在力がより強く影響していることが判明した.

## 1 行開け

### 3. まとめ

科学的根拠がないと言われてきた「ピラミッドパワー」を実証するため,PS を使用して,科  
 中略

に対する PS の潜在力の影響が異なることが発見された( $p=4.0 \times 10^{-7}$ ). これらの結果は,科学的な実験によって,PS の未知なる機能(「ピラミッドパワー」)が実証された世界で最初の研究成果である. この成果が,科学の新しい一分野を開く可能性と,幅広い応用分野の発展に寄与することが予想される.

## 1 行開け

引用文献： 下記の文献は 字フォント Times New Roman,明朝 11pt 行間 12pt

氏 middle name のイニシャル 名(極カフルで),の順. 7 人目以降は et al. を付し省略

1) Rubik M Beverly,Jobs D Harry:Interactions of Pyramidal Structures with Energy and Consciousness. Beverly Cosmos and History.*The Journal of Natural and Social Philosophy*,**12**(2) 259-275 2016.

Available:<https://cosmosandhistory.org/index.php/journal/article/view/565/933>

文献例

8) Takagi Osamu,Sakamoto Masamichi,Yoichi Hideo,Kawano Kimiko,Yamamoto Mikio:Potential Power of the Pyramidal Structure.*Natural Science*,**11**(8) 257-266 2019.Available:<https://doi.org/10.4236/ns.2019.118026>

文献例

9) 山本 幹男:第 1 章 気功の計測による研究,単行本 山本幹男 他 監修:潜在能力の科学,国際生命情報学会発行,千葉市,日本,54-91 2004.

Available:<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/detail/R300000001-I000007319793-00>

単行本例

10) Takagi Osamu,Sakamoto Masamichi,Yoichi Hideo,Kawano Kumiko,Yamamoto Mikio:Chapter 4 “Meditator’s Non-contact Effect on Cucumbers”,in Rafatullah Mohd (Ed.), *Theory and Applications of Physical Science Vol. 3*, Book Publisher International,London,UK,105-113 2020.(Print ISBN: 978-93-89816-24-2, eBook ISBN: 978-93-89816-25-9, Available:<https://doi.org/10.9734/bpi/taps/v3>)

高木 治 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ヲウキビル 4FA

電話 043-255-5481 e-mail : takagi@a-iri.org

章,題名:字 Times New Roman 14pt 太字 行間 17pt その他 : 字 12pt 行間 14pt

## Chapter XX

### Study on unexplained functions of the pyramidal structure

Osamu TAKAGI<sup>1</sup>, Masamichi SAKAMOTO<sup>2</sup>, Hideo YOICHI<sup>3</sup>, Kimiko KAWANO<sup>4</sup>,  
Mikio YAMAMOTO<sup>5</sup>

<sup>1, 3-5</sup> *International Research Institute (IRI)*, Chiba-City, Japan

<sup>1</sup> Director of Science; takagi@a-iri.org, <sup>3</sup> Director of Technology & Senior Researcher

<sup>4</sup> Vice Chairman of the Board of Directors, <sup>5</sup> Chairman of the Board of Directors

<sup>2</sup> President, Aquavision Academy, Narita-City, Japan

**Abstract:** Until this study, there have been few statistically significant and rigorous scientific experiments on the function of a pyramidal structure. This study was begun in October 2007 at the *International Research Institute (IRI)* and continues to date. The purpose of this research has been to

中略

upper and lower stages of the biosensors placed in two layers at the top of the PS was different ( $p = 4.0 \times 10^{-7}$ ). These results are the world's first research results to prove "pyramid power" through rigorous scientific experiments and analysis. The results are expected to open up a new field of science and a wide range of applied fields.

**Keywords:** pyramid, potential power, meditation, unconsciousness, non-contact effect, delay, biosensor, cucumber, gas, psi index

原稿終了 全8頁 と 全頁数を 赤字で 書き入れる。 この行は印刷では取ります